



事務局：〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-14-2（新陽ビル7階）

TEL：03-5155-7576 FAX：03-5155-7578

E-mail jim@jaeis.org http://jaeis.org/

情報と災害支援

岡本敏雄（日本情報科教育学会 会長）

“一寸先は闇”といった言葉がありますが、昨今の現状（特に我が国）はまさにこの言葉が当てはまります。予測性、想定性といった概念が、如何にファジーなものであるかを考えさせられます。

高校普通科に教科「情報」、専門教科「情報」が設立され、数年経ちました。日本人（若い人たち）に新しい学力が着実に形成されているであろうことを願いますが、まだまだ地道な努力が必要であると痛感する昨今でもあります。それは「情報」という教科が、国際的な視野から見て、極めて重要な教科であるにもかかわらず、どうも我が国におけるその認識が“ガラパゴス的”であるという現実があることを危惧します。公教育で学ぶ事項、“カリキュラム”は、標準化（standardization）が極めて重要です。それは公平性（equity）を担保する責務が求められるからです。

ところで、1995年に起きた阪神・淡路大震災では、地域のコミュニティ、震災ボランティアが震災直後およびその後の復興の大きな力になりました。このたびの東日本大震災においても、この2つの自主的なインフォーマルな組織体が、その回復作業において、大きな原動力になっていることは言うまでもありません。

そして、これらをつなぐ役割として、今回クローズアップされたのがソーシャルメディアです。そもそもソーシャルメディアは、個人と個人、個人と組織、組織と組織などの社会的な関係やつながりを促進するものですので、一人の小さな力が集まって大きなうねりになったり、また組織は組織の力で大きなうねりをつくり、個人がその補完をしたりなどさまざまな展開が見られました。

例えば、情報収集において、Google社は、避難所の名簿の写真を全体に公開するアルバムや、画像から得られた情報をデータベースとして検索できるようにしたPerson Finderを文字通り不眠不休でリリースしました。しかし、最初に画像を送るのも、送られた画像データをテキストデータに変換するのも、そしてデータベースに「ここでみかけた」という情報を登録するのももちろん個人の力です。

twitterもリアルタイムの情報が個人ベースで発信され、情報収集、拡散、共有に大きな役割を果たしました。しかし、残念ながらデマ情報やチェーンメールも発生しました。特に、twitterでは、「拡散」という性質上、必要な情報も誤った情報も同様に広まり、収束するまでに時間がかかってしまいました。膨大な情報から正確な情報を得るために、専門家チームの発信している専門知識や正しい情報をtwitter上で選択的に得る人も増えました。

情報科教育学会では改めて「情報」の重要性を認識し、将来を担う子ども達が大きな力をもつ「情報」、その「情報」を見極め、活用できるよう役割を果たしていく所存です。

最後になりましたが、東日本大震災で被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、被災地の一刻も早い復興を心よりお祈りします。

本号目次

情報と災害支援	1	大学入試センター試験の出題科目についての
第4回全国大会実施要項【第1報・07/04】	2	要望
九州・四国・中国支部設立総会報告	4	コラム～大震災における活動と情報教育～
近畿・北陸支部総会開催報告	5	広報委員会からのお知らせ

第4回全国大会実施要項【第1報・07/05】

この度、東日本大震災で被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、被災地の一刻も早い復興をお祈りしたいと思います。日本情報科教育学会第4回全国大会の茨城大学での開催は、第4回全国大会実行委員会の状況報告を受け、中止が決定されました。よって、急遽代替として畿央大学で開催することとなりました。日本の将来を見据え、情報科が果たすべき役割を改めて考える機会になることを祈念しております。

大会テーマ：新教育課程を踏まえた情報科教育の展望

会場校：畿央大学 〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2 TEL 0745-54-1601
最寄り駅：近鉄大阪線「五位堂駅」（鶴橋より22分）下車
奈良交通バス5分「馬見中5丁目」下車すぐ、もしくは徒歩20分

日本情報科教育学会 第4回全国大会プログラム（予定）

第1日：10月15日（土）

- 12:45～13:15 受付
- 13:15～13:20 開会のあいさつ（各会場へ配信）
- 13:20～15:05 一般研究発表 ・企業展示・ポスターセッション
- 15:10～15:20 休憩 ・企業展示・ポスターセッション
- 15:20～16:50 企画セッション ・企業展示・ポスターセッション
- 17:00～19:00 懇親会 会場：学内食堂

第2日：10月16日（日）

- 9:45～10:15 受付
- 10:15～11:45 一般研究発表 ・企業展示・ポスターセッション
- 11:45～12:45 昼休み ・企業展示・ポスターセッション
- 12:50～13:40 総会
- 13:45～13:50 会場校よりご挨拶
- 13:50～14:10 基調講演 岡本 敏雄（本学会会長、電気通信大学大学院）
- 14:15～14:55 招待講演：未定
- 15:00～16:30 パネルディスカッション
テーマ：情報科教育における教育の情報化
司 会： 笥 捷彦（早稲田大学）
話題提供：永井 克昇（文部科学省初等中等教育局視学官）
パネリスト：西野 和典（九州工業大学）他
- 16:30～16:35 閉会の挨拶

諸費用

	会員	非会員
大会参加費	1,000円 (教諭・学生：無料) *証明書等をお持ち下さい	2,000円
論文集代（購入自由）	2,000円	3,000円
懇親会（参加自由）	3,000円	3,000円
計	6,000円 (教諭・学生：5,000円)	8,000円

発表・参加のスケジュール

- ・発表は、未発表のものとし、当委員会により認められたものとしします。テーマは情報科教育に関するものとしします。登壇者は本学会の会員としします（連名の発表者はその限りではありません）。優秀な発表（一般研究発表およびポスター発表）は表彰されます。
- ・発表には、一般研究発表と、ポスター発表があります。一般発表の講演要旨はA4×2ページで、発表時間は12分です。ポスター発表では、各ポスター30分のコアタイムを設けます。少なくともその30分間は、ポスター会場に待機して見学者とディスカッションをお願いします。

- ・発表および参加の申込は、<http://jaeis.org/zenkoku/> をご覧下さい。
- ・発表申込：7月5日（火）～7月25日（月），
講演要旨提出期限：8月19日（金），
- ・参加および懇親会の申込：7月5日（火）～8月19日（金）

- ・発表および懇親会は定員に達し次第締め切らせて頂きます。また、講演論文集を確実に入手したい場合は期限迄に参加申込をして下さい。

会場校からのご案内

- ・大学周辺に宿泊施設はありません。大阪市内（難波、上本町周辺）にお泊まり頂くと便利です。
- ・大学周辺に飲食店、コンビニはあります。16日（日）も学食はあいています（但し、昼食時のみ）。
- ・外部の方は大学構内のネットワークをご利用頂けません。必要な方は各自でご準備下さい。一部学食でのみ無線LANをご利用頂けます。
- ・発表者用のパソコン（Windows機）は用意しております。パワーポイント以外のソフトウェアを使われる方、Windows機以外をご利用の方は各自でご準備下さい。



◆敷地内および敷地周辺禁煙です。喫煙所は全くありません◆

喫煙される方は、近隣の飲食店をご利用下さい。

大会実行委員会

委員長：西端律子（畿央大学）

委員（50音順）：石橋裕之（畿央大学），稲川孝司（大阪府立東百舌鳥高等学校），江守恒明（関西大学中等部・高等部），金丸貴裕（大阪府立狭山高等学校），鹿野利春（石川県立金沢二水高等学校），坂井貴行（兵庫県立武庫荘総合高等学校），佐藤万寿美（兵庫県立西宮今津高等学校），杉崎忠久（奈良県立香芝高等学校），高橋参吉（千里金蘭大学），竹中章勝（清教学園中・高等学校），武村泰宏（大阪芸術大学），田中規久雄（大阪大学），中條道雄（関西学院大学），西田知博（大阪学院大学），西野和典（九州工業大学），野部緑（大阪府立寝屋川高等学校），長谷川友彦（近江兄弟社高等学校），福森貢（畿央大学），松原伸一（滋賀大学），村上徹（関西中央高等学校），山上通恵（兵庫県立社高等学校），米田謙三（羽衣学園高等学校）

お問い合わせ

日本情報科教育学会 事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-14-2（新陽ビル7階）

TEL 03-5155-7576 FAX 03-5155-7578

e-mail jimu@jaeis.org URL <http://jaeis.org/>

第4回全国大会実行委員会 e-mail jaeis4th@gmail.com

公式twitter ID @jaeis4 ハッシュタグ #jaeis4

2011年3月20日(日)九州工業大学飯塚キャンパスにて九州・中国・四国支部設立総会を開催し、約50名が参加しました。総会では、支部の役員、規約、活動方針等が承認されました。続いて、本学会近畿・北陸支部長の高橋参吉先生が、本学会が果たす役割や近畿・北陸支部の活動についての講演を行いました。さらに、「新学習指導要領と情報科教育」をテーマにパネルディスカッションを行いました。倉光浩二先生(福岡県立修猷館高等学校)と山下祐司先生(山口県立岩国高等学校)がパネリストとして問題提起を行い、指定討論者も加わって共通教科と専門教科「情報」を中心しつつも、小学校から大学まで広く情報科教育に関する論議が行われました。また、近畿・北陸支部副支部長の佐藤万寿美先生より、近畿・北陸支部での研究内容等の報告も行われました。総会後の情報交換会にも15名の参加がありました。

九州・中国・四国支部の役員・評議員と支部設立総会のプログラムは以下の通りです。

九州・中国・四国支部役員・評議員

理事(支部長) 西野 和典(九州工業大学)
理事(副支部長) 倉光 浩二(福岡県立修猷館高等学校)
理事(副支部長) 山下 裕司(山口県立岩国高等学校)
理事(事務局長) 池田 勇(嘉麻市教育センター)
理事(会計) 豊瀬 仁須(田川市立田川中学校)
評議員 浅羽 修丈(北九州市立大学) 評議員 阿濱 茂樹(山口大学)
評議員 倉斗 義規(福岡市立春住小学校) 評議員 合田 和正(九州情報大学)
評議員 鷹岡 亮(山口大学) 評議員 尋木 信一(有明工業高等専門学校)
評議員 坪倉 篤志(日本文理大学) 評議員 津森 伸一(近畿大学九州短期大学)
評議員 中村 星朗(北九州市立大学) 評議員 畑野 新司(大分県立宇佐高等学校)
評議員 藤本 直樹(福岡県立宗像高等学校) 監事 竹田 正幸(九州大学)
監事 山之上 卓(鹿児島大学)
顧問 篠原 武(九州工業大学)

九州・中国・四国支部設立総会プログラム

14:00~14:30 総会

14:30~15:20 講演

JAEIS支部活動の活性化

—近畿・北陸支部の活動状況について—

千里金蘭大学教授 高橋 参吉(日本情報科教育学会事務局長、近畿北陸支部長)



15:30~16:50 パネルディスカッション「新学習指導要領と情報科教育」

コーディネータ:

西野 和典(九州工業大学)

パネリスト:

倉光 浩二(福岡県立修猷館高等学校)

山下 祐司(山口県立岩国高等学校)

指定討論者:

竹田 正幸(九州大学)

佐藤 万寿美(兵庫県立西宮今津高等学校)

池田 勇(嘉麻市教育センター)

16:50~17:00 事務連絡

17:00 閉会

18:00~20:00 情報交換会





近畿・北陸支部総会開催報告

近畿・北陸支部事務局長 鹿野 利春

日本情報科教育学会の平成22年度支部総会を下記のように開催し、多くの会員の皆様及び情報教育に関心のある方のご参加をしていただきました。

日時：平成23年3月27日(日) 13:00～18:00

場所：内田洋行ショールーム&セミナールーム(大阪市中央区和泉町2-2-2)

内容：総会・ワークショップ・実践研究発表・ショールーム見学・講演

参加：理事・評議員13名、その他12名

(1) 総会

総会に先立って11時30分から理事会・評議員会を開き、支部規約が承認され、理事・評議員等の推薦を行いました。総会は高橋支部長の挨拶で始まり、役員等の就任が行われ、平成22年度の事業・決算、平成23年度の事業・予算が承認されました。また、関西での全国大会開催及び支部としての協力も承認されました。

(2) ワークショップ

講師にアライドテレシス株式会社の滝川裕介氏を迎え、ワークショップを開催しました。「実習から学ぶネットワークのしくみ」というタイトルで、パケットキャプチャツールを使った実習を行いました。コンピュータがどうやって相手を見つけているかについて、楽しく、わかりやすく理解することができました。

(3) 実践研究発表

発表者に福岡県立宗像高等学校教諭の藤本直樹氏を迎え、「情報機器の発達と生活の変化に関する指導と評価について」というタイトルで発表していただきました。具体的な評価項目や方法の提示、情報機器や情報通信ネットワークを使うことで生徒による自己評価、相互評価、小テストによる評価を迅速かつ効率的に行う方法などを、豊富な具体例とともに紹介していただきました。

(4) ショールーム見学

内田洋行のスタッフの皆様、未来の学習空間「フューチャークラスルーム」を中心に説明していただきました。

(5) 講演

九州工業大学の西野和典氏を講師に迎え、「教育の情報化ビジョンと情報科教育」というタイトルで講演していただきました。2010年8月に文部科学省から「教育の情報化ビジョン(骨子)～21世紀にふさわしい学びと学校の創造を目指して～」が発表されました。西野氏は文部科学省で、これをまとめた「学校教育の情報化に関する懇談会」に参加されておりました。

本講演では「教育の情報化ビジョン」の内容と情報科教育とのかかわりについて、21世紀にふさわしい学び、21世紀型スキルと情報科教育、情報科教育のための教育課程などの観点からお話していただきました。

大学入試センター試験の出題科目についての要望

「大学入試センター試験の出題科目についての要望」を独立行政法人 大学入試センター文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室に提出しました。要望書の内容は以下をご覧ください。なお、項目5の参考資料は本学会のWebページをご覧ください。

要望内容

貴センターにおかれましては、ご清祥のことと拝察申し上げます。本学会は、情報の教科教育を標榜する唯一の学会です。本学会理事会・評議員会におきまして慎重に審議しました結果、我が国のさらなる国力向上、子どもたちの学力向上等を確かなものにするため、情報に関わる知識や理論はもちろんのこと、情報倫理・情報モラルに関わる部分も含めて、その資質や能力がきわめて重要な時代になってきていることを確認いたしました。

つきましては、平成21年に告示された高等学校学習指導要領の必履修教科・科目である共通教科「情報」の2科目「社会と情報」と「情報の科学」を大学入試センター試験の出題科目にすることを強く要望いたします。

なお、その理由など詳細につきましては、下記の通りです。よろしく願いいたします。

要望の趣旨

1. センター試験は、必履修科目の基礎的な学習の達成度を測定するものである。

センター試験は、高等学校段階における基礎的な学習の達成度を測定するための手段であることから、必履修科目である教科「情報」の各科目も他教科の科目と同様に大学入試センター試験の出題科目に位置付ける必要がある。

また、平成23年3月現在、国・公・私立を合わせて全国257大学（全大学の約1/3）に、情報関連学部・学科が設置されており、その数は505学部・学科にも上る。したがって、共通教科「情報」を大学入試センター試験に導入した場合、多くの大学が「情報」をセンター試験の受験科目に指定すると考えられ、数多くの受験生が見込まれる。

2. 実験・実習を伴う他教科の科目も入試科目となっている。

共通教科「情報」の各科目は、理科の物理や化学、生物、地学の各科目の性格に類似している。共通教科「情報」は、情報活用の実践力を通して、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を育てる。実習を伴う教科「情報」の各科目も、大学入試センター試験の入試科目として位置付けることが可能である。

3. 共通教科「情報」は、大学入学試験に耐えうる学習内容を十分に有している。

大学入試センター試験については、平成15年6月の段階で「高等学校における教育の実態等を十分に踏まえる必要があるため、出題の可能性について引き続き検討することとし、平成18年度から当分の間は出題の対象としない」こととされた。

「情報A」，「情報B」及び「情報C」から「社会と情報」及び「情報の科学」に改訂され，実習時間の制約（全授業時間に対する実習時間の割合は「情報A」が1/2以上，「情報B」および「情報C」が1/3以上）が削除され，“情報学の学習”という位置づけが明確となり，大学入試センター試験に十分耐えうる内容となっている。具体的にその例を示せば，別紙「参考資料」の通りである。このため，日本と他の国の製品の技術力に違いが出にくくなった。これにより，生産拠点の海外移転，空洞化，GDPの低下につながっている。これからは，柔軟な思考のできる発想をもった人材の育成が重要であり，教科「情報」の果たす役割が大きい。このような状況の中で，共通教科「情報」を大学入試センター試験に導入し，その学力の達成度を測る仕組みが必要である。

4. デジタル情報社会の人材を育成する仕組みを構築する。

アナログ時代のモノづくりは，熟練，器用，勤勉がモノづくりを支え，日本が世界をリードしてきた。しかし，デジタル時代のハードウェアのモノづくりは，熟練の技術がなくても，定番の半導体を組み込めば高品質のものができる。ソフトウェア開発のないものづくりはないと言っても過言ではない。

5. 望ましい情報社会の構築とその維持のための，理論や知識が豊富にある。

教科「情報」は，単なる情報技術の内容だけではなく，望ましい情報社会の構築やその維持のための，学習が豊富に含まれている（参考資料をご覧ください）。

たとえば，最近頻発するネットワーク犯罪などに対しても，情報セキュリティ技術などの科学的な仕組みを絡めた情報モラルの適切な指導をすることによって健全で適切なネットワークの活用を育成することが期待できる。

情報やネットワークに関わる科学的な仕組みの知識をベースに，情報モラルの育成ができるのは教科「情報」をおいて他にはない。しかし，現状では達成度を測る仕組みがないために，必ずしも学習指導要領で示された内容を，すべての学校で質的かつ量的に適切に指導されているとは言えない状況にある。したがって，健全な情報社会を構築し，公正で公平な社会に貢献する人材育成の視点からも，達成度を測る仕組みが必要である。

また，人材育成の観点から，すでに各方面より様々な提言が出されている。たとえば，内閣総理大臣を本部長とするIT戦略会議が2005年度に出した報告書によると，IT化を加速するために行うべき課題の1つとして「大学入試でのIT関係科目を利用すること」が提言として挙げられている。また，OECD（経済協力開発機構）のPISA調査など各種の調査からは，我が国の児童生徒については，思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題，知識・技能を活用する問題に課題があると言われている。このような状況の中で，共通教科「情報」の果たす役割は非常に大きいものと考えられる。

竹中章勝（清教学園中・高等学校）

3月11日、本当に未曾有の大震災が東日本を襲った。

出張中だった私はスマートフォンを使い動画配信サービスに流れる信じがたい映像をただただ見続けた。同時にTwitterのタイムラインには多くの情報が流れ始め追いつけない状態となった。テレビも繰り返し津波の映像と情報を伝えるが、同時にNetwork上のソーシャルメディアに流れる膨大な情報にも多くの人々が関わった。また、Twitterに流れる情報をボランティアが目で追いつき、ネット上の地図にプロットしていったり、救護所の位置、機能している病院の情報を瞬く間に共有されていった。

発災二週間後に、私は日赤救護班の一員として福島避難所に派遣された。診療活動のサポートの傍ら避難所の様子をみていると、避難されている方はテレビで報道を見られる方は少なく、新聞もあまり読まれていなかった。それよりも手書きで書かれた「入浴施設案会」や「罹災証明発行手順書」「近隣の避難者情報」等を熱心に読まれていた。ロビーにはインターネット接続された端末もあったが老人と子どもが中心の避難所では誰も使用されていなかった。

心のケア要員と一緒に被災者のお話を聞いていると、ある子どもが泣きながら「勉強がしたい」というので、子どもを集めてロビーの絨毯の上で急遽授業を行った。ノートに丸をつけてあげた時の本当にうれしそうな笑顔が忘れられない。また常用している薬の名前が解らず、ドクターと一緒にネットワークで薬を検索しドクターの処方サポートも行った。

様々な情報教育が行われているが、今回の体験から情報科で学んだ高校生や大学生が被災地外の自宅等で行える活動は沢山あることが解った。更に現地でも「情報」を扱うことで「社会に参画」することが出来る。このような「生きた活動する心」も育成する情報科教育活動を続けていこうと日々考えている。

広報委員会からのお知らせ

- ・ 次回の発行は、第4回全国大会のプログラムを記載するため、10月初旬を予定しています。
- ・ コラム、研究実践報告などの寄稿をお待ちしております。

日本情報科教育学会ニューズレター No. 11 2011年07月05日

発行所 日本情報科教育学会事務局 <http://jaeis.org/>
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-14-2（新陽ビル7階）
TEL：03-5155-7576 FAX：03-5155-7578 E-mail jimu@jaeis.org

発行責任者 広報委員会

委員長：西端律子（畿央大学）

委員：池田勇（嘉麻市教育センター）、鹿野利春（石川県立金沢二水高等学校）、高橋朋子（武庫川女子大学）、竹中章勝（清教学園中・高等学校）、天良和男（東京都立日比谷高等学校）、中西渉（名古屋高等学校）、西田知博（大阪学院大学）、野牧賢志（日本大学）、森本康彦（東京学芸大学）